

# 東京大学インド事務所 (海外大学共同利用事務所) の取り組みについて

吉野 宏

2014年2月14日

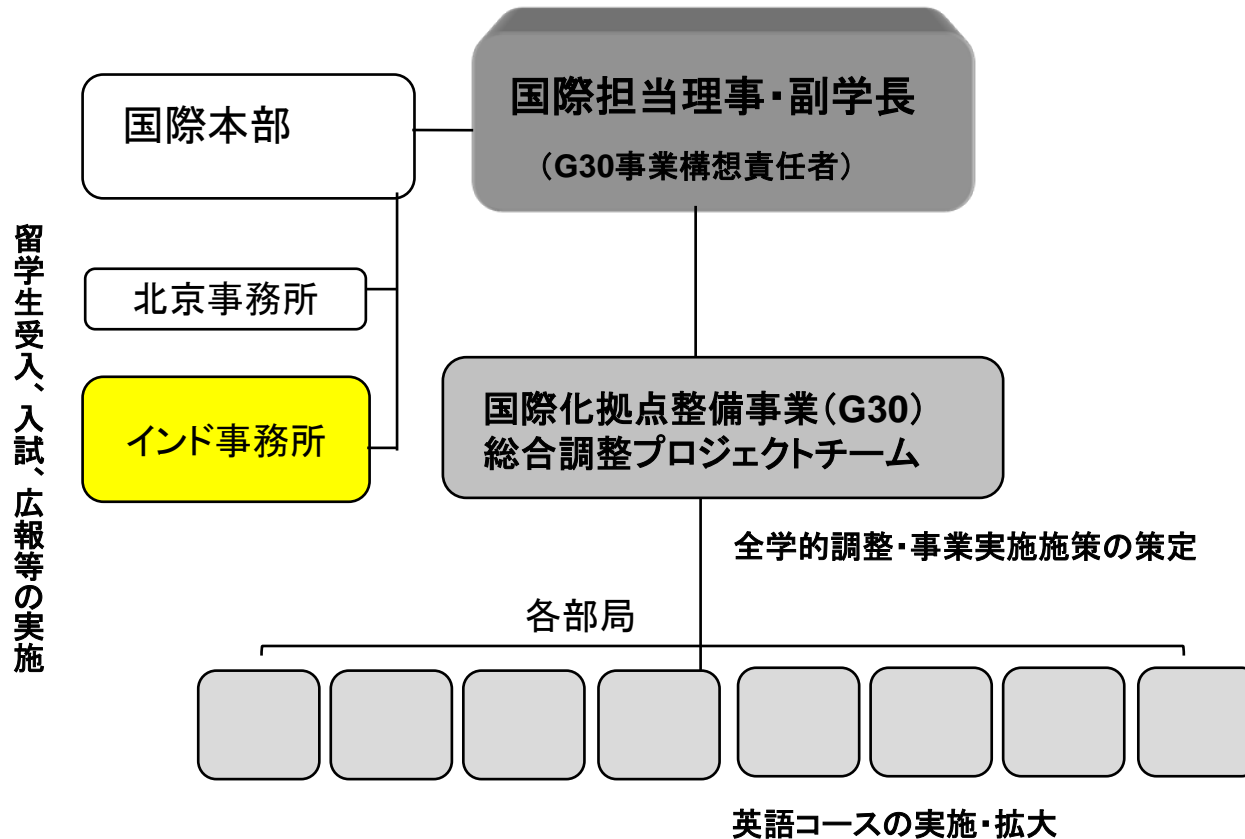


東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

# 1-1.事務所開設の経緯

- 東京大学行動シナリオ(2010年)  
グローバル・キャンパスの形成  
「アジアとの人的交流を大幅に拡大する」
- 東京大学国際化長期構想  
中国、インドとの連携の戦略的な強化  
(教育、人材獲得面)  
⇒ 留学生受入れ重点国に指定

# 1-2. G30事業の取組とインド事務所



# 1-3. 事務所設置目的

## ①日本へのインド人留学生の受け入れ促進

G30事業による「海外大学共同利用事務所」

## ②インドへの日本人学生の受け入れ

(本学学部生のインド体験活動の計画と実行)

## ③インドにおける学界・産業界とのネットワーク強化を通じた日印の学術交流、産学連携の推進



## 2. 東京大学インド事務所概要

住所：#408, 4th Floor, Prestige Meridian -1, No.29 M.G.Road Bangalore  
560001,India

電話：+91-80-4150-8509

職員：代表者1名： 所長 吉野 宏(77年理学部化学科卒)

スタッフ1名： シバニ・ゴパールクリシュナ(Ms)

米国留学後、2008年早稲田大学院アジア大洋州研究科国際関係修士

設立：2012年1月16日(事務所登録日)

HP: <http://www.indiaoffice.dir.u-tokyo.ac.jp/>

E-mail: [indiaoffice@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:indiaoffice@ml.adm.u-tokyo.ac.jp)



●開所式:2012年2月27日(月)

インド側主賓:インフォシス(株)ナラヤナ・ムルティー会長  
(東大総長諮問委員)

日本側主賓:文部科学省 藤木文部科学審議官(当時)

ホスト:東京大学 田中 前副学長(4月1日付JICA理事長)

備考:日印外交樹立60周年記念行事の一つとして開催。

●付属組織:インド赤門会(2012年2月26日発足)

インド事務所の機動力を支える上で極めて重要な存在



### 3. 大国インドに拠点を持つことに関心がある大学へのアドバイス

#### 3. 1 事務所の開設のポイント

- インド中央銀行事務所開設許可取得が出発点
- 目的に合ったステータスの選択(例: 駐在事務所、共同研究所他)
- 立地 (都市、ビル、大学内等)
- 会計事務所(主に開設許可取得関連業務)

#### 3. 2 活動のポイント

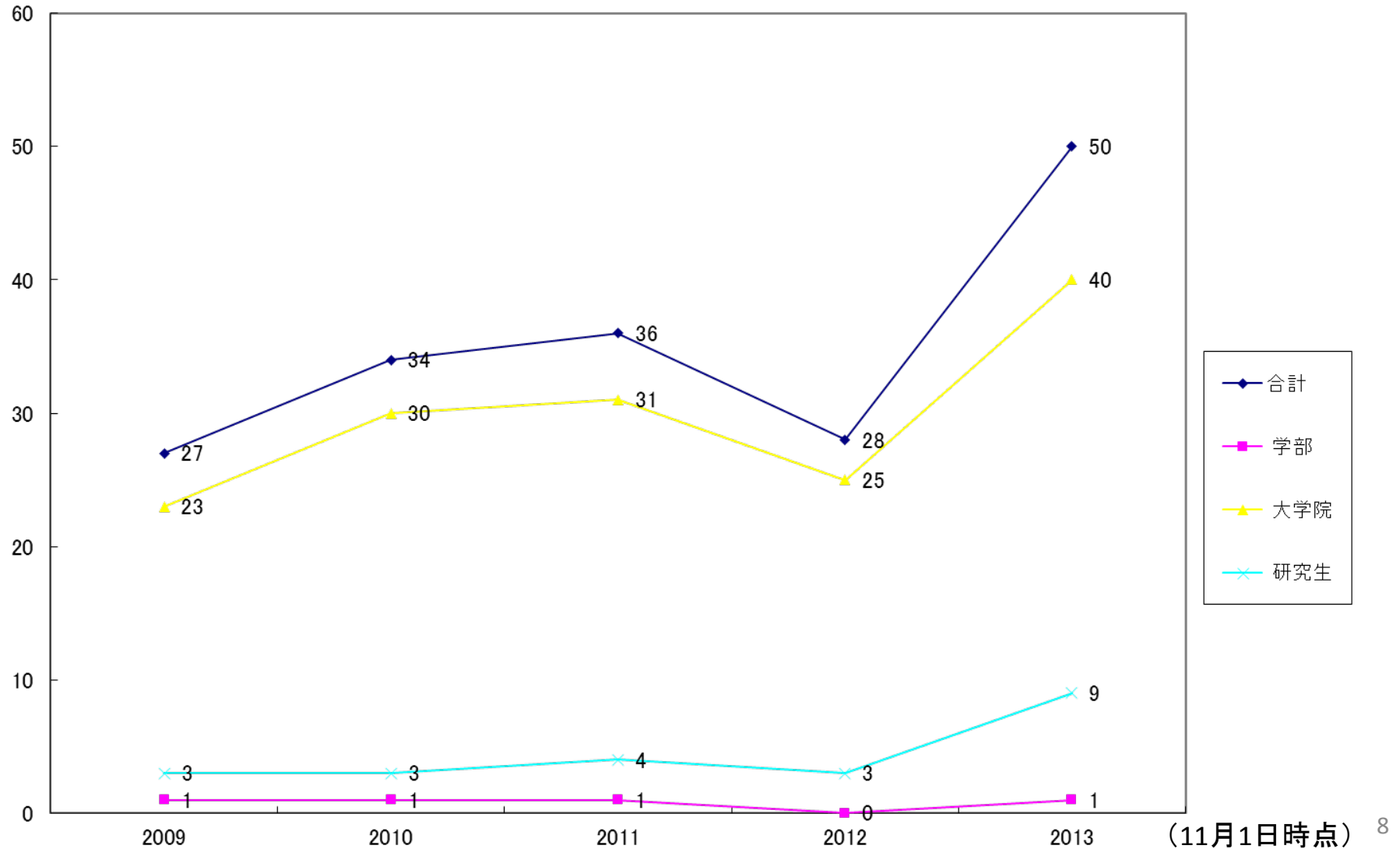
- 心構え: 点ではなくて連携による多面的なアプローチ志向  
例: 日本留学フェア開催の継続

#### 3. 3 運営のポイント

- 優秀インド人スタッフ及び信頼出来る運転手の確保(モチベーション、日本語)
- 会計事務所(一般会計業務及びインド政府への各種報告関連業務)
- インドでの取引銀行(銀行により使い勝手がかなり違う)
- インターネット接続メンテナンスの確保
- 安定電源供給の確保
- その他(駐在員の予防接種、ビザ取得、外国人登録)

# 4. 成功例：インド人留学生の受入増加

東京大学インド人留学生数





# インド人留学生の受入状況 (2013年の集計結果が待たれる)

## インド人留学生数(日本全体)

	国費	私費	合計	日本全体の留学生数	インド人留学生の割合
2009年	220	323	543	132,720	0.41%
2010年	220	326	546	141,774	0.39%
2011年	212	361	573	138,075	0.41%
2012年	190	351	541	137,756	0.39%

(JASSO集計結果、5月1日付け在籍数)

# 成功要因① 日本留学フェアの開催

## 日本留学フェア(バンガロール)開催実績

2012年9月1日

会場: Vivanta by Taj MG Road (市内ホテル)

主賓: 国立生物科学研究所長 Prof.K.VijayRaghavan, F.R.S.

G30採択大学から9大学が参加

約300名の高校生・大学生が来場

フェア前後にデリー2校、バンガロール7校を高校訪問



2013年9月7日

会場: Bishop Cotton Boys' School (地元有力高校)

主賓: ジャワハルラルネルー先端科学研究所名誉所長、科学担当首相補佐官

CNR RAO教授

G30採択大学から9大学が参加

約600名の高校生・大学生が来場

フェア前後にデリー2校、ビハール州パトナ2校を高校訪問



# 成功要因①日本留学フェア開催 (東大主催、参加実績)

## 2011年度

- 11月 立命館大主催 於:国際交流基金オフィス  
JICA 主催9大学留学生説明会 於:インド工科大学ハイデラバード校  
東大インド事務所主催 於:インド工科大学ボンベイ校、日本語教室 ムンバイ総領事館参加

## 2012年度

- 8月 立命館大主催 於:デリー地元有力高校DPS RK PURAM
- 9月 JICA主催9大学留学説明会 於:インド工科大学ハイデラバード校
- 10月 東大インド事務所主催 於:インド工科大学カンプール校  
東大インド事務所主催 於:SUPER30(ビハール州パトナ)
- 11月 東大インド事務所・立命館大インドオフィス共催 会場:インド工科大学マドラス校

## 2013年度

- 9月 立命館大主催 於:デリー市内ホテル  
MOSAI主催 於: SP College , PUNE
- 10月 JICA主催 India-Japan Collaboration Fair 於:インド工科大学ハイデラバード校
- 1月 立命館大インドオフィス・東大インド事務所共催 (川口コルカタ総領事よりの助言)  
於:西ベンガル州 州立 Presidency University, Kolkata(1817年創立)  
於:同上 国立 Vishva Bharati University, Shanti Niketan (1939年創立)

## 要因② インド赤門会の設立

- 発足:2012年2月26日
  - 会員数:106名(2013年12月末現在、日本人55名、インド人51名)
  - 役員:名誉会長:八木大使(77年法学部卒)
    - 名誉会員:インフォシス社マルチ会長(東大総長諮問委員)
    - 会長:クルカルニ氏(91年工学部電気工学科修士卒、国父ガンジーの曾孫)
  - 東大インド人留学生会(The University of Tokyo Indian Students Association)との連携
  - インド事務所活動の上で重要な存在である背景
    - ①日本留学説明会
      - パネルディスカッションのモデレーター役
    - ②インド体験学習(本学学部生向け体験型プログラム)での協力
      - 日本大使館、日本政府機関、国連機関、有力日系企業に駐在するOB・OGより現役生に職場紹介、ホームステイ
      - 参加実績:12人(2プログラム)
      - 来年度は拡大し実施予定
- インドでの異文化体験や就労体験を通じて、  
「よりタフに、よりグローバルに」人材を育成

# 要因③ ネットワークの構築と広報活動

## ●有力校の理事長・校長合計6人の日本招待

国立 学校 : Kendriya Vidyalaya 理事長 (学校数1094校、学生112万人)

ランク上位私立校 :

Vasant Valley (New Delhi) 校長

Bishop Cotton Boys' School校長 (地元)

Mallya Aditi International School校長 (地元)

National Public School校長 (地元)

有名予備校 : SUPER30, Ramanujan School of Mathematics校長 (ビハール州パटना)

## 効果①

Bishop Cotton Boys' School : 2013年日本留学フェア (バンガロール) 開催

→経費の半減、参加学生の倍増

## 効果②

SUPER30: 貧しい学生のみ対象にして校長の自宅で30人を特訓。インド工科大学への合格率90%を誇る教育イノベーターとして世界的に有名校。

→インド全国ニュースとして取り上げ

# 要因③ ネットワークの構築と広報活動

## ●有力大学との連携

### 協定先との連携

#### ①全学協定先: インド工科大学5校

(カラグプール校、カンプール校、デリー校、マドラス校、ハイデラバード校)

東大-IIT奨学金 (大和証券、森精機)

#### ②部局協定先: インド理科大学院(バンガロール)、国立海洋研究所(ゴア)

## ●地元有力国立研究所との連携

### 日本留学フェア主賓

#### ①ジャワハルラルネルー先端科学研究所

(Jawaharlal Nehru Center for Advanced Scientific Research)

CNR RAO名誉所長(科学担当首相補佐官)

#### ②国立生物科学センター(National Center for Biological Science)

VijayRaghavan 前所長(現科学技術省バイオテクノロジー局長官)

## 要因③ ネットワークの構築と広報活動

### ●2国間政府プロジェクトへの参加

JICAが進めるインド工科大学ハイデラバード校支援プロジェクトに参加

- ①キャンパス建設の基本設計
- ②学術交流2分野(ナノテクサイエンスと都市工学)
- ③JICA奨学金を活用した人材育成プログラム(9大学の一つとして参加)

### ●産官学連携

#### ①鉄道分野での人材育成を取り上げて推進中。

2013年10月 デリーメトロ公社より派遣留学生1名を工学系社会基盤学専攻修士に迎えた。  
現在、鉄道省と派遣留学生について協議中。

#### ②2013年6月 インドの鉄道研究者5人(インド工科大学カラグプール校鉄道研究所関係教授4人とインド国立経営大学院アーメダバード校教授1人)をJETRO、JICAと共に招聘。

### ●日本語教育関係者との連携

国際交流基金日本語教育専門家、国際協力機構青年海外協力隊日本語教師、日系企業

### ●広報活動

#### ①メディアとの連携

インドの留学生雑誌 CAREERS360 に年2回投稿。 4月～5月大使館推薦国費留学情報、  
9月～11月G30関連情報。

#### ②インド事務所のHP立ち上げ

# 5. 失敗例

## 失敗から学んだ教訓

- ①欧米名門校との併願状況の中で本学入学試験の判定時期が後手に回っている。
- ②応募者の本学への留学意欲を十分に確認出来ていない。
- ③入試のやり方が留学応募者に親しくない。



## 6. 今後の課題と展望

### ●課題

- ①留学生に向けた入試  
渡日を必要としない英語コースが基本
- ②日本留学フェア開催の継続
- ③ネットワークの拡大と深化
- ④インドとの交流拡大によるメリットの啓蒙

### ●展望

- ①学事暦見直しによる交流の拡大
- ②政府主導による日印関係の深化で両国の交流が拡大し留学希望者の増加が期待出来る。

# インド人留学生の声



- Excellent Professors
- Interesting Culture
- Excellent Research Facility
- Excellent Railway Technology

## おわりに

### ●日印関係

昨年、天皇皇后両陛下、そして今年、安倍総理の歴史的なインドご訪問もあって、両国関係は深化している。今年1月25日付け共同声明「日印戦略的グローバル・パートナーシップの強化」ポイント39で大学間の協力を支援して日印間の留学生を倍増させることが謳われた。

[http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/page3\\_000632.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/page3_000632.html)

総理は科学セミナーでのスピーチの中で、自らインド人大学生、研究生、科学者に対して「是非、日本に来て下さい。」と呼びかけた。

[http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/page3\\_000635.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/page3_000635.html)

### ●インド高等教育事情

JASSOウェブマガジン留学交流2月号「アジアにおける国際展開」（2月10日公開予定）に、「東京大学インド事務所の取り組み」と題して投稿。ご参照。

<http://www.jasso.go.jp/about/kouryu.html>

